

現代日本の国民病

亜鉛欠乏症

著 倉澤隆平
インタビュー・構成 尾形道夫

あまり知られていないことだが、高齢者を中心に、今国民の3割が亜鉛不足のため、さまざまな症状に悩んでいる。

褥瘡 胃瘻 食欲不振 舌痛症 味覚障害 皮膚の疾患などなど、人々を悩まし、苦しめているそれらの症状が、亜鉛を補充すれば治ることを、一人の医師が発見、治療した。これはその報告である。

◆目次

- 第1章 病者一人もなし（インタビュアーから）
- 第2章 忘れられない患者さんたち
- 第3章 KITAMIMAKI STUDY（北御牧疫学調査）
- 第4章 多くの症例から見えてきたもの
- 第5章 「亜鉛欠乏症」をどう診断すればいいのか
- 第6章 誤りの「新基準値」を正す
- 第7章 大部分の褥瘡は、亜鉛補充療法と適切な局所療法で治癒する
- 第8章 治療困難と言われる舌痛症も亜鉛補充療法で治癒の可能性が
- 第9章 まとめに改めて ～亜鉛欠乏症は21世紀の国民病であり、文明病である～



◆著者紹介

倉澤 隆平 現 東御市立みまき温泉診療所顧問。日本亜鉛栄養治療研究会顧問。佐久市立国保浅間総合病院名誉院長。
 1937年 長野県別所温泉に生まれる。1956年 長野県立上田松尾高校卒。東京大学教養学部理科II類入学。
 1958年 東京大学教養学部課程修了、退学。1963年 東京大学医学部卒。木本外科入局。一般外科、胸部外科専攻。
 1970年8月 佐久市立国保浅間総合病院外科医長。1985年4月 佐久市立国保浅間総合病院院長
 2000年6月 北御牧村温泉診療所長。2002年秋 村民に亜鉛欠乏症患者さんが多いことに気づく。
 2003年4月 定年退職。北御牧村温泉診療所顧問。同年、村等の協力を得て、村民1431名の血清亜鉛濃度値の調査を行ない、これまでの常識に反して、村民が全体として亜鉛不足状態にあることを発見。
 2005年 東御市旧東部町地区市民等約1800名、長野県各地850名余の血清亜鉛濃度の調査を実施。日本全国中で、国民が亜鉛不足状態にある可能性を推測させる結果を得た。
 2009年2月 社会福祉法人みまき福祉会理事長、2019年6月同理事長退任。長野県国保直診医師会会長、全国国保診療施設協議会理事等々歴任。
 長野県国保直診医師会顧問。第24回医療功労賞等受賞。
 1984年より、長野県国民健康保険診療報酬審査委員会委員を務め、同審査委員会専門部会委員医科部会長、会長代理、会長歴任。

尾形道夫（インタビュアー） 現フリージャーナリスト。
 1950年 徳島県生まれ、1968年 早稲田大学第一政経学部政治学科入学。1972年 同大学同学部卒業。暮しの手帖社に入社。
 2002年 暮しの手帖社第3代編集長、2014年 暮しの手帖社退職。
 暮しの手帖に執筆するほか、「病気とからだの読本」などの単行本、別冊にも多数編集出版。

ご注文申込書 貴店名 / 帖合	注文数	発売：株式会社三恵社 TEL:052-915-5211 FAX:052-915-5019
	冊	著者：倉澤隆平 インタビュー・構成：尾形道夫 現代日本の国民病 亜鉛欠乏症 288頁/四六判/並製本 定価2,400円（税別） ISBN 978-4-86693-450-1 C0047
ご注文は、JRCへ FAX：03 - 3294 - 2177(TEL：03 - 5283 - 2230) 株式会社 JRC 経由で、すべての取り次ぎへの出荷が可能です。返品は長期にお受け致します。		

※取次配本はありません。